若手職員を対象に漆掻き事業現地研修会を実施

三八上北森林管理署

当署では 8 月 6 日（火）、主に若手職員を中心とした職員 9 名の参加により、漆掻き事業現地研修会を実施しました。

当署管内（三八地域）では、文化庁が国宝や重要文化財の修理修復において国産漆を 100%使用する方針を定めてから、樹液が原料となるウルシの木の植栽に高い関心が集まっています。今研修会は、ウルシの植生や漆の採取、漆掻きの作業内容などを知り、理解を深め業務に役立てるために企画・実施したものです。

1. 漆掻き事業地見学

岩手県二戸市内の事業地において、（株）小西美術工塾社　福田二戸支社長、漆掻き職人　遠藤　様のご協力をいただき実施しました。

福田二戸支社長からは、ウルシの木を探すところから始まり、ウルシの木が見つかったら所有者と交渉し、買い受けをしていることや、ウルシ原木は植栽して約 15 年で漆を採取することができること、漆掻き職人の年間作業スケジュールなど、漆掻き事業の概要について説明がありました。また、遠藤　様による漆掻きの実演を見学した後質疑応答があり、これまでの体験や今後に向けた取り組みについて聞くことができました。

現地概要の説明

漆の採取（カマズリ）の様子

漆の採取（カンナ）の様子

漆の採取（掻き取り）の様子

2. ウルシコンテナ苗の苗畑、ふるさと文化財の森「漆の森」見学について

次に、二戸市内にある（株）小西美術工塾社の所有するウルシ苗畑を見学しました。

福田二戸支社長からウルシはこれまで普通苗を植栽してきているが、当社ではコンテナ苗の生産を始めた。コンテナ苗は運搬しやすく、活着率がほぼ 100%であるなど、コンテナ苗の育苗方法や苗木生産規模の概要等について説明を受けました。

その後、二戸市浄法寺にある「漆の森」を見学しました。「漆の森」は、文化庁が文化財建造物の保護を目的に、修理のための資材の安定的確保を図るため、ふるさと文化財の森第１号として設定したものです。この場所はかつて牧草跡地を利用しウルシを植栽した場所で、ウルシは根萌芽が盛んで、伐採後４年程度経過後に抜き取りをして良いものを残しているなどの説明がありました。

今後も様々な機会をとらえて、若手職員の技術向上に努めていきたいと考えています。

苗木生産規模等についての説明

コンテナ苗の特徴等について

コンテナ苗の育苗方法について

コンテナ苗の育苗方法について

ふるさと文化財の森（漆の森）の概要について

根萌芽の状況